

ネパール・ヒマラヤ最奥の山麓ハイクと放映

P1

御法川齊

14年前の2012年3月8日～17日、

JTBヒマラヤ山麓ハイク旅行の体験記

(未だ腰痛も無く元気な時)

1. 土地勘

P2

ポカラ（800m ネパール第2の都市27万人）トレッキング基地
ダウラギリ、アンナプルナ、マナスル8000m級のヒマラヤ連峰が眼前
に見える、紺碧のペワ湖に臨む。ジヨムソン村を経て更にヒマラヤ最奥
のドルポ地方に至る。

（その先は中国・チベットに通じる）



ポカラ公園にサクラの先祖ヒマラヤサクラが満開 ネパール国花赤いシャクナゲ

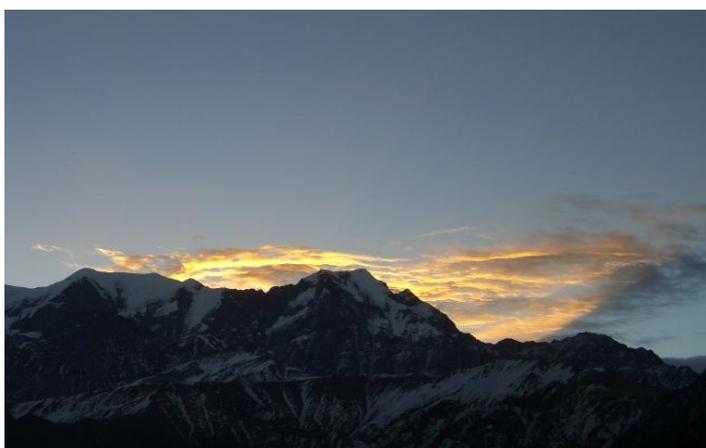
1) ジョムソン村にポカラから 18 人乗り軽飛行機で 20 分飛び
3泊4日。

内訳は世界第7位の8000m峰ダウラギリのお膝元ナウリコットの
丘陵2700mに建つ絶景ロッジ「タサンビレッジ」1泊
&「ジョムソンマウンテンリゾート」欧米風 2泊し、
3日間100m程の高低差のハイクを5コース体験。



ダウラギリの感動的景色をジョムソンホテル屋上から眺望

(朝焼け直前～朝焼けで黄金色に輝く。手前は氷河)



ニルギリに掛かる夕焼け雲

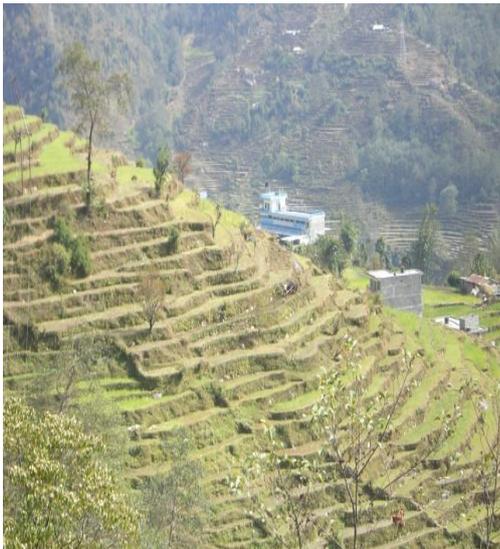
2) 稀有な体験

P4

最後のハイク日、出発時には好天⇒途中から 30m/Hr の山嵐になった。途中で“あの道が中国に至る道”との説明。

午後 2 時にハイクから帰還直後に天候急変⇒吹雪に見舞われ気を揉んだが夜中に止んだ。

翌日、帰路の軽飛行機が飛来せず 1 泊追加か？とヤキモキ⇒何とか軽飛行機が飛来し、ポカウに引返せた体験。



急峻な段々畑に麦、野菜を作る



砂嵐のジヨムソン吊り橋を行く

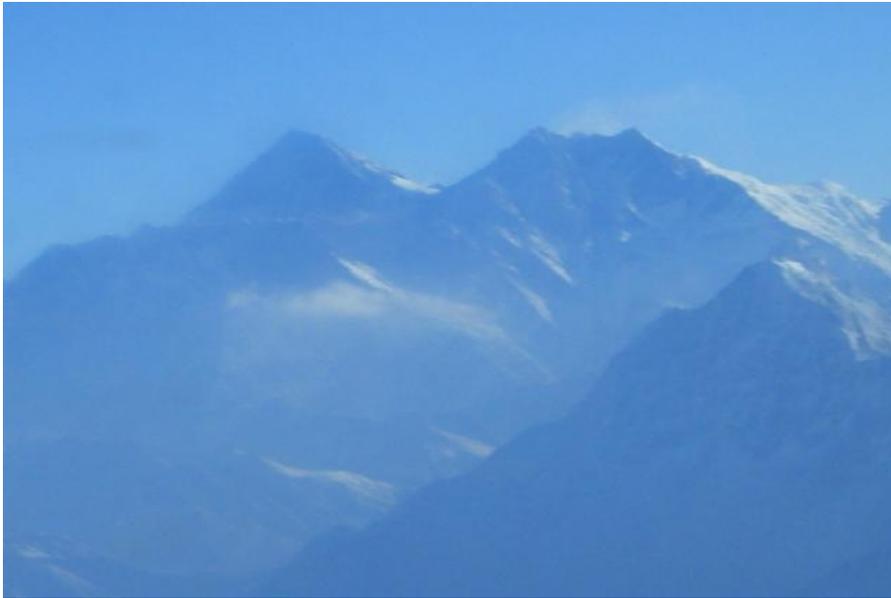


ジヨムソンの昼は皆、日向で



ドリケル高原の子供と交流

軽飛行機でエベレスト、アンナプルナの近傍飛行も2回楽しむ！
でも後から判った事ですが時々乱気流に巻き込まれて墜落する事を知り、胸を撫でおろした次第。



エベレストを遊覧飛行機内から（左手奥がエベレスト、手前はローツエ）

ネパール語では Sagarmatha（サガルマタ）世界の頂上と呼称

ネパール料理でカレー系。

一時は幸福度世界一！と有名になったブータン同様に物余り生活の我々からみると、貧しさと満足度が同居する生活実態を垣間見た。

1 例として当時だがプラスチック投棄公害が顕著。紙は腐るので最後には目立たない。段ボールは食料難で牛が食べる。



首都カトマンズにはヒンズー教寺院が割拠

ハイキング詳細：

標高差は少ないが高地 2700 m のハイクにつき少しは疲れが大きい。

乾期で山は未だ緑、花が少ない。

- ・ドリケル→ガネシュ村までハイク：2 Hr、ヒマラヤ山脈とカトマンズ盆地、中国への道を遠望、各所で結婚式の準備。日本支援の Shree Ganesh Secondary School。
- ・ジョムソン→林檎のマルファ村までヒマラヤ展望ハイク：3 Hr、NGO リンゴ栽培技術の TT、ナウリコットへのジープ 1, 5 Hr は凸凹道で疲れた。崖に僧侶の穴居修行。
運よく現地ガイドにも初と言う村長の豪華な葬式にも遭遇。
- ・ナウリコット村ハイク：1 Hr、ツクチェ、ダウラギリの展望。Jeep は Mahindra 製。
- ・ジョムソン→ドンバ湖→ティニ村までヒマラヤ展望ハイク：4 Hr、昼近くになるに連れて 25 m 強風となり土埃で歩行、吊り橋渡行に困窮する。カメラシャッターが砂で不調となる。ホテル着 PM2 時から 6 時に地元でも珍しい吹雪まで体験。翌朝、飛行機が飛ぶと聞き皆で万歳！さもなくばポカラまでジープで 12 時間の苦行であった。
- ・ポカラ→サランコット：2 Hr、郊外に雄大な段々畑と真っ赤なシャクナゲを求めて。

「氷と雪に閉ざされた秘境の地 ネパール・ドルポ地方」

コロナ禍が騒がしくなった時期、山岳ディレクター他が決死の取材、
2年間に150日撮影結果。

其処のティンギュー集落（500人、酸素濃度60%）では正月2月5日の仮面祭り、1妻多夫（兄弟も）の奇習もあり、（信じがたいが）仲が良い！と言う。バター茶はスープと紅茶の中間、ヤクー肉・ジャガイモのカレー、現代医学と違う治療法。

再放映を期待